

# こだま

第52号 (2023年7月)

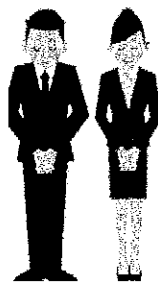
発行 九鬼コミュニティセンター

電話 0597-29-2164



## 町内の皆様へ

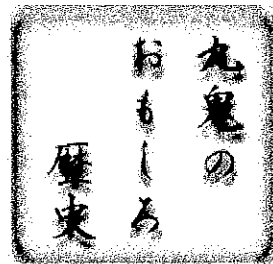
この度、長い間ご愛読いただきました「こだま」の発行を終了する事となりました。皆様には、ご意見やご支援をいただき心より感謝申し上げます。  
また「九鬼おもしろ歴史」については引続き発行されます。  
今後とも、コミュニティセンターの活動へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 「九鬼小唄」その後

「楽譜みつかった」の後、専門家の先生方に見ていただき、歌い易いように編曲をお願いしました。

漁村センター玄関横に「九鬼の港は八鬼山下の忘れられよか鱒どころ」と刻み込んだ板柱が立っています。雨情が九鬼役場裏の日本間で作詩した昭和十一年六月二六日は鱒漁真只中で一網四万六千尾水揚げした後だったので、この唄になったのです。前年十年は年間十六万尾水揚げした年でした。



## 九鬼小唄

① 大漁旗立て波乗り越して 船は港を差して来る  
風は東風だよ 大魚群

サテ・オシヤ・シヤノシヤン・ヤツサ・オシヤサノ・シヤン

- ② 紀伊の九鬼なら名の出た港 岸にや千艘の大漁船
- ③ わたしや紀州の荒海育ち 伊達に鱒船乗りはせぬ
- ④ 九鬼の港は八鬼山下の 忘れられよか鱒どころ
- ⑤ 波は渚に千鳥は磯に 月は三思ヶ丘の上
- ⑥ 九鬼の岬にどんと打つ波は 岸に砕けて花と咲く
- ⑦ わたしや石経峰一本松よ 風に吹かれた潮風に
- ⑧ 九鬼の網代で磨いたからにや 色は黒いが腕自慢
- ⑨ 網は網干場で日に干しや乾く なぜに乾かぬわが涙
- ⑩ 三十三間堂の柳の分け木 見たか眞巖寺の菜師さま
- ⑪ 奈佐の鼻から頂かけて 啼いて空ゆく時鳥
- ⑫ 九木の社の椰の葉よりも わしの心はなほ切れぬ
- ⑬ 山に桜の花咲く頃は 沖に鳥つき魚が来る
- ⑭ 九鬼の水道は不動の滝の 昔や 酒船 桜水
- ⑮ 夜明け頃やら出船の支度 丹羽の海面ぼのぼのと